

「古代下野国と渡来人」

1. 概要

日本書紀には「新羅の人々を下野国に住ませた」との記述があり、近年、県内の遺跡から、7世紀末～8世紀前葉頃の朝鮮半島系の土器が発見されている。これらを展示し、古代下野国における渡来人の足跡を、わかりやすく紹介する。

2. 展示資料一覧

	資料名	遺跡名	内容
1	陶質土器甕	免の内台遺跡（芳賀町）	日用品と考えられ、渡来あるいは渡来系の人々の痕跡を示す遺物である。
2	陶質土器壺	惣宮遺跡（壬生町）	日本の須恵器には見られないスタンプ状の道具を用いて施文しており、朝鮮半島産と考えられる。非日常的な器種と考えられる。
3	陶質土器甗	西下谷田遺跡（宇都宮市）	西下谷田遺跡は下野国府の前身ともいえる重要な行政機関の遺跡であるが、県内では渡来系の陶質土器が最も多く出土し、この行政施設に渡来人が一時的に集められた可能性が指摘されている。
4	陶質土器碗	西下谷田遺跡（宇都宮市）	
5	陶質土器柄杓子形土器	西下谷田遺跡（宇都宮市）	
6	陶質土器甗	西下谷田遺跡（宇都宮市）	
7	陶質土器つまみ	西下谷田遺跡（宇都宮市）	
8	陶質土器碗	西下谷田遺跡（宇都宮市）	

3. パネル一覧

	パネル名	内容
1	古墳時代の渡来人の足跡	古墳時代の渡来人の足跡と、5～7世紀までの半島の政治的動向、文献・遺物からみる県内の新羅系渡来人の移住を紹介する。
2	7世紀の日本を取り巻く状況	
3	古代下野国の渡来人の足跡	
4	那須国造碑	コラムパネルとして、全国的に有名な国宝那須国造碑を取り上げ、ここでも渡来系の人々の痕跡を読み取れることを解説。



展示風景